The Expert

平成25年4月10日発行

脳神経センター（脳神経外科）　周郷　延雄 教授（昭和63年・東邦大卒）

東邦大学脳神経外科における脳腫瘍治療の取り組み

地域連携関連施設の先生方には、平素格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。清木義勝教授の後を引き継ぎ、平成21年４月から診療科責任者となりましたので、どうぞよろしくお願い申し上げます。専門領域としては、頭蓋底外科手術を含めた脳腫瘍の外科治療を行っております。脳腫瘍は、比較的少ない疾患ではありますが、その種類は豊富で治療方法も多岐に渡ります。したがって、個々の患者さんに適した治療を行うために、十分な設備に加えて専門の医師と経験豊富なメディカルスタッフとのチームワークが良い治療を生み出すものと考えています。

良性脳腫瘍（髄膜腫、血管芽腫、下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫、聴神経腫瘍など）の治療

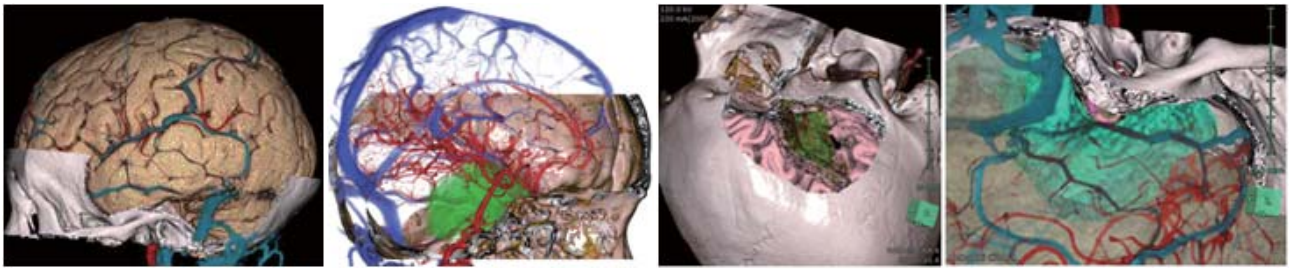
病理学的に良性であっても、脳にできた場所やその大きさ、何らかの症状がある場合に治療を要します。基本的な治療方法は外科的摘出手術ですが、放射線治療や経過観察など個々の患者さんにとって最も適した治療を選択していきます。当科では、外科的摘出手術をより安全に施行するため下記の方法を取り入れています。

1）**ニューロナビゲータ**：術前に撮影したCTやMRIの画像をもとに、実際の手術において、操作部位の三次元的位置をとらえることができる装置です。見えにくい深い部分や大事な脳の部分の特定に役立ちます。

2）**術中モニタリング**：手術をしながら、同時に脳波のごとく電気生理学的検査を行い、運動や感覚の症状が出やすい脳の場所を同定する検査です。これによって手術後に神経障害が悪化しないようにしています。当院の生理機能検査室と協力し、良性脳腫瘍ではほぼ全例に行っております。

3）**術前腫瘍内血管塞栓術**：髄膜腫や血管芽腫などの血管が豊富に存在する腫瘍では、手術中に多くの出血をきたすことが予想されます。そのような場合に脳血管内手術によって、手術前にあらかじめ腫瘍内の異常血管を塞栓して術中出血を減らすように心がけています。

4）**三次元合成画像を用いた手術シミュレーション**：当科で独自に開発した方法により、手術前のCTやMRI、SPECT、脳血管造影の画像データから、三次元合成画像を作成しています（下図）。この画像を用いて個々の患者さんの手術方法を詳細に検討した上で実際の手術を行っています。



神経膠腫の治療

神経膠腫では、前述の良性脳腫瘍と同様の方法を駆使して外科的摘出手術を行います。得られた組織の病理学的悪性度に応じて、放射線治療および化学療法を行います。

転移性脳腫瘍の治療

腫瘍の大きさや部位、多発性によって、外科的摘出手術の必要性や放射線の照射方法を検討します。当院では放射線治療室と協力し、全脳照射のほか、リニアックを用いた定位脳放射線照射を行っております。この定位脳放射線照射とは、病巣に対し多方向から放射線を集中させる方法です。通常の放射線治療に比較して、周囲の正常脳組織への照射をできるだけ減少させることが可能です。定位脳放射線照射では、mm単位の高い精度で照射することができます。

そのほか、脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、脳動静脈奇形、もやもや病などの脳血管障害や、小児の脳神経外科疾患、脊髄腫瘍など幅広い外科治療を行っておりますので、是非ご相談いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

医療機関専用電話　**パートナー**

03-3762-6616（直通）

（受付時間　平日 8:30～17:00、土曜 8:30～14:00）
（休診日：第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10）

診療日

周郷　延雄　教授：月曜日午前・土曜日午前

東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151（代表）
http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/
発行元：地域医療支援センター

The Expert

平成25年4月10日発行

乳腺・内分泌外科　緒方　秀昭 准教授（昭和62年・東邦大学卒）

当科の取り組み

平素より城南地域の先生方にはお世話になっております。私ども乳腺・内分泌外科は乳腺外科と内分泌外科から構成され、現在５名の常勤スタッフが主に乳腺疾患と甲状腺疾患の診療にあたっています。

乳癌というと〝乳房のしこり〟を連想される方が多いと思われますが、実はその症状は多彩で、皮膚の陥没やひきつれ、乳頭の湿疹など一見して乳癌を連想させにくいものも多くあります。また全乳癌の約15%を占める非浸潤癌は自覚症状や理学的所見がなく、検査を行ってはじめてその存在を確認できることも多いですし、最近はマンモグラフィーや超音波では描出できずMRIでのみ確認しうる乳癌の存在も明らかにされています。もともと乳房は妊娠・出産・生理周期はもとより、アレルギー性疾患や膠原病などの全身性疾患、心理的ストレス、抗うつ薬や降圧剤などの薬剤投与によっても様々な変化を呈します。また葉状腫瘍や線維腺腫など非上皮性腫瘍、肉芽腫性乳腺炎、乳輪下膿瘍や乳頭炎などの炎症性疾患など乳腺特異的に発症する疾患もあり、乳癌との鑑別診断が難しい事が多いのです。一方、甲状腺癌には乳頭癌、濾胞癌、髄様癌、悪性リンパ腫などが含まれ、各々特徴的な臨床所見を有しますが、その診断は細胞診断でも確定できないことがあります。また結節性甲状腺腫や甲状腺癌、橋本病や初期のバセドウ病などの鑑別が問題になることもしばしばです。

現在、乳癌の罹患数は1970年の５倍になり女性乳癌の最多の罹患数ですし、甲状腺癌は最近の頸部検診の普及に伴い甲状腺腫瘤として偶然発見されることが増えてきました。しかし乳腺疾患も甲状腺疾患も、日常診療において高血圧や糖尿病などのように頻度の多い疾患とはいえず、対応に苦慮されることが多いと伺っています。

従って、我々の地域診療における目的の一つは、乳房や頸部に何か症状や訴えのある患者さんを積極的に受け入れて精査し、先生方に適切な診療情報をお伝えすることにもあると思っています。乳腺や頸部に関して何か疑問や不明な点がございましたら、遠慮なくご相談・ご紹介ください。

外来診療は原則として月曜日から土曜日まで毎日行っており、パートナーを通じてのご紹介も毎日受け付けております。

＜乳腺外科＞

対象疾患は乳癌や葉状腫瘍などの悪性疾患の他に、線維腺腫などの良性腫瘍、乳腺炎などの感染性疾患、男性の女性化乳房なども含みます。乳癌に対する手術は乳房温存手術や乳房再建（１期または２期再建）を積極的に行っています。また今年度より家族性乳癌に対するカウンセリングと遺伝子検査を開始いたしました。

＜内分泌外科＞

内分泌外科は主として甲状腺・副甲状腺疾患を主な対象として診療を行っています。甲状腺疾患は甲状腺癌（乳頭癌・濾胞癌・髄様癌・悪性リンパ腫）や結節性甲状腺腫（濾胞腺腫・腺腫様甲状腺腫など）を対象に治療を行っています。

診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

医療機関専用電話　**パートナー**

03-3762-6616（直通）

（受付時間　平日 8:30～17:00、土曜 8:30～14:00）
（休診日：第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10）

診療日

月曜日～土曜日（第３土曜日を除く）午前中

緒方　秀昭　准教授：火曜日午前・木曜日午前

東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151（代表）
http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/
発行元：地域医療支援センター